

科目名	老年看護学方法論Ⅱ	対象学年・時期	2年・後期
講師	非常勤講師及び専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	<p>老年看護学方法論Ⅱでは、老年期に生じる代表的な疾患を取り上げていく。病態の理解と加齢による変化を踏まえた、老年期に特徴的な健康問題を取り上げる。健康問題が暮らしに及ぼす影響や、対象にとってのQOL等、老年看護の基本的な視点を学び、看護を実践する能力が育まれることを期待する。老年期の対象において、加齢がもたらす身体的・心理的・社会的変化は、対象となる高齢者の人生、暮らしに影響を及ぼす。対象はその変化に適応しながら自律したその人らしい暮らしを送っている。暮らしに影響を及ぼす「加齢」の実態とその影響、その人らしい暮らしを送るために必要な支援の視点を、この科目では学んでいく。</p>		
授業形態	「講義」「グループワーク」「演習」		
学習目標	<p>1. 老年期に特有な疾患と病態生理を理解し、健康問題に対する看護がわかる。 2. 治療を受ける高齢者への看護がわかる。</p>		
授業計画	<p>1回目 高齢者の疾病の特徴 2回目～4回目 認知症の理解と看護 5回目～7回目 高齢者の運動器疾患の特徴 骨粗鬆症 ・骨折・変形性関節症 8回目 パーキンソン病の理解と看護① 疾患の理解 9回目 パーキンソン病の理解と看護② 誤嚥性肺炎を発症した事例 10回目 高齢者うつ病の理解と看護 複数疾患を有する高齢者の特徴 11回目 看護過程 演習① 12回目 看護過程 演習② 13回目 看護過程 演習③ 14回目 看護過程 演習④ 15回目 終講試験（90分）</p>		
使用テキスト	<p>・ナースンググラフィカ 老年看護学②「高齢者看護の実践」 第6版 堀内ふき 諏訪さゆり 山本恵子著 メディカ出版</p>		
事前・事後学修	<p>各疾患の理解においては、病態関連図を作成しておく。また老年看護学方法論Ⅰの主症状の学習内容を整理しておく。 その他、講義中に適宜指示する。</p>		
評価基準および評価方法	<p>筆記試験100%（専任教員50% 非常勤講師50%） いずれかが6割に満たない場合、最終成績は60点とする。</p>		
備考			